

平成24年度 自 己 評 価 表

鳥取県立皆生学校

中長期目標 (学校ビジョン)	学び、輝き、感動のある学校 幼児・児童・生徒が充実した学校生活を送り、個々の可能性を伸ばし、より良く生きることができるよう支援する学校 《 1 8 歳で自立できる人を育てる 》 ～将来を見とおした今のＱＯＬの向上～
-------------------	--

今年度の 重点目標	○特別支援教育の専門性を高め、指導力と実践力の向上を図る。 ○各教育課程毎に指導内容を精選し、系統性のある指導に努める。 ○地域支援に努め、特別支援教育のセンター的機能を発揮する。
--------------	--

年 度 当 初					最 終 評 価 (2) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
一人一人に視点をあてた学習指導の充実	幼稚園部	● 自立活動の時間の指導が充実したか。	● 個々の幼児のねらいに応じた指導に取り組む時間が十分といえない。	● 幼稚園の教育課程に準じた幼稚園部教育を進めながら、自立活動の指導が充実している。	● 自立活動チェックリスト等を活用しながら幼児一人一人の課題を整理する。 ● 自立活動の時間を設定し、個々の課題に応じた指導の充実を図る。	● 個々のねらいに応じた教材・教具を用いて個別の課題に取り組み、小学部の学習につながる基礎的な部分での伸びが見られた。また、学んだことを他の保育の場面にいかすことができた。	A ● 今後も自立活動の時間を設定し、個々のねらいを明確にして指導にあたる。
	小学部	● 各自の課題となっている授業の学習指導が改善したか。	● 教育課程や授業形態の改善に取り組んできた。現在、試行錯誤しながら授業に取り組んでいるところである。	● 各自の課題となっている授業の学習指導が改善する。	● 研究・研修課と連携して、実践報告や検討会を行う。 ● 画像、映像の記録をもとに指導の評価をおこなう。	● 学習指導の改善のために、画像、映像の記録を活用して教員間の情報交換や授業の振り返りを行った。 ● 個別の授業では、画像、映像を撮りにくかった。	B ● 様々な学習場面において、画像、映像を撮りやすくする方法を探るとともに、これらの資料を活用して学習指導を改善していく方法を更に模索する。
	中学部	● 計画的な T T 会を活用して、生徒一人一人の目標を明確にして授業改善を進めたか。	● T T 会をもつ時間の確保はできつつあるが、発達や障がい特性に応じた授業づくり、教材・教具の工夫、指導内容の系統性の検討については改善の余地がある。	● 的確な実態把握に基づいて、個々のねらいを明確にし、発達や障がい特性に応じた授業づくりを行う。	● 映像記録をもとにした指導の評価を行う。発達検査等による正確な実態把握を行い、目標設定や授業づくりに生かす。 ● 効率的な学部会運用を工夫し、後半に T T 会を持てるようにして、T T 会の時間確保をする。	● T T 会を計画的に設定し、生徒一人一人のねらいやその支援について話し合い、授業改善に向けて取り組みは進んできた。実態把握の結果や映像記録を目標設定に活かしつつある。	B ● 映像記録をもとに適切な評価を行い、的確な目標設定に活かす。チェックリストや発達検査等による正確な実態把握を行い、授業改善を継続して進める。 ● 連携図を作成して、個のねらいを明確にした授業実践を行う。
	高等部	● 障がい特性に応じた指導が連携をとりながら実施されているか。	● 学習連携図を利用し、各授業の繋がりができてきた。 ● 教科指導では生徒への共通した支援を行うために、今以上の連携をとる必要がある。	● 個別的教育支援計画・指導計画と各授業が関連づけられながら実施されている。 ● どの学習場面でも同様の支援が行われている。	● 次学期の学習を話し合う時に学習関連図を見直す。 ● 校内研究や分掌と連携をとり授業改善を行う。 ● テーマを絞ってケース研を実施する。 ● 実態にあった教材の工夫をする。	● 連携図をもとにして、ねらいや支援、評価が話し合われ連携をとりながら授業改善を行うことができた。 ● 校内研究を積み重ね、実態把握をもとにした有効な指導法について検討し、実施することができた。	A ● より連携のとれた指導が行えるよう、障がい特性に応じた指導に関する事例研を実施する。 ● 教科指導において研究で取り組んだアセスメントシートの作成を促進する。
18歳の自立を見据えた進路指導の充実	幼稚園部	● 進路指導計画を活用して日々の指導や就学指導を進めたか。	● 本人や保護者のニーズなどから将来の幼児の生活する姿がとらえにくい。	● 将来を見とおして、身につけさせたい力を明確にし小学部へつなぐ。	● 分掌と連携をしながら、活用方法を検討する。	● 進路指導計画を活用しながら将来を見据え、基礎となる力を育てることを意識して保育にあたった。	B ● 進路指導計画を日ごろの保育につなげていく方策を引き続き検討し、進路を意識した保育のあり方を探っていきたい。
	小学部	● 進路指導計画を活用した授業づくりをおこなったか。	● 進路指導計画を活用して授業を行おうとする動きがみられるようになってきた。	● 進路指導計画を日ごろの授業に活用する。	● 分掌と連携をしながら、活用方法を検討する。	● 重点として取り組む教科・領域を設定したり、学部研修を行ったことで、進路指導計画を活用し、進路を意識した指導が定着してきたが、他の教科・領域での取り組みにはばらつきがあった。	C ● 重点として取り組んだ教科・領域以外の指導において、進路指導計画を活用し、進路を意識した指導ができるように、今後も実践や研修を継続して行っていく。
	中学部	● 進路指導計画を生徒の実態に合ったものに改善できたか。 ● 進路指導計画のねらいを意識した授業づくりができたか。	● 1 8 歳の自立を目指すために中学部段階でつけた力が明確になっているとは言えない。進路指導旬間等での個のねらいに応じた指導が必要である。	● 進路指導計画を改善し、進路指導旬間等で個のねらいに応じた指導が行われている。	● 生徒の実態をもとに進路指導計画を練り上げる。 ● 進路指導計画をもとに、身につけさせたい力を設定し、実践・評価・改善（P D C A）を行う。	● 学部研修会等で生徒一人一人が将来必要とされる力（個別の指導計画等の目標）をもとに進路指導計画を見直し、実態に応じた進路指導計画に改善できた。 ● 進路指導旬間の取組から見えてきた生徒のニーズを意識した授業づくりができていた。	C ● 各機関や保護者との連携を密にして、進路指導旬間の取組や施設見学を進める。 ● 進路学習の取組の評価を T T 会でを行い、指導に活かす。 ● 進路指導計画を個別的教育支援計画、指導計画、年間指導計画に活かして授業づくりをする。
	高等部	● 生徒の実態をもとに卒後の社会生活や自立に向けて学習が見直されているか。	● 障がい者の社会生活の実際や福祉・就労に関する知識を深める必要がある。 ● 普段の指導とキャリア教育がどのように関連しているか整理する必要がある。	● 保護者や関係機関と連携をとりながら学習が積み上げられている。 ● 研修等で学んだことが指導や相談に活かされている。	● キャリア教育の視点で授業の組み立てや進路指導に関する研修を行う。 ● 各学習グループでどのように進路指導計画を活用するのか検討を行う。 ● 地域資源を活かした授業を実施する。	● 個別の会等、話し合う機会を設け、共通理解を図りながら卒業後の生活を意識した授業作りがされてきた。 ● 個別的教育支援計画や指導計画をもとに授業を組み立てるとともに、地域資源を生かした応用的な学習を実施することができた。	A ● 各授業で今指導していることが将来どのように繋がっていくのか、明確に説明できるようにする。 ● 保護者の方と十分に話し合える機会を設け、今以上に連携をとりながら学習を行う。 ● 卒業後の進路に関する知識を深める。
ニーズに対応できる専門性の向上	幼・小学部	● 各自が必要な専門性を高め、それを活用することができたか。	● 多様な障がいをもった子ども達がいる中で、総括的な研修だけでは個々のニーズに応じた専門性を高めることは難しい。	● 自分自身に現在必要な専門性に気づき、それを高めて活用する。	● 必要な専門性に関して自分自身を振り返るために専門性チェックシートを活用する。	● 不足している専門性や今後身につけたい専門性を整理したり、意識したりして、専門性の向上に取り組むことができた。 ● 専門性チェックシート自体が使いやすいとは言い難かった。	C ● 専門性チェックシートをより評価しやすく改善したり、活用方法の紹介等を通して、個々人の専門性の向上への意識がより高まるようにしていく。
	中学部	● 客観的な実態把握の方法を用いてニーズに応じた授業づくりに生かすことができたか。	● 的確な実態把握に基づいた、ニーズに応じた指導が十分に行われているとは言えない。	● 実態把握に必要なツールを活用して目標設定ができています。 ● ねらいやつけたい力を明確にした授業実践による授業改善ができています。	● 研修等で新たに習得した専門的知識や技術を広げる機会を設定する。 ● 実態把握から目標設定において複数の教員で検討し合える機会を設定する。	● 専門性チェックを行い、授業改善に関わる自己の研修課題を各自が気付いている。 ● 発達検査やチェックリストによる客観的な実態把握の取組は進んでいる。結果を授業づくりに反映できるまでには至っていない。	C ● 専門性自己チェックを継続して行い、自己の研修課題を決めて研修を進める。 ● 校内研究での取組や研修内容を日々の授業の中で各自実践することにより授業の実践力を高める。
	高等部	● 実態把握や研修で得た知識・技術が目標設定に活かしているか。	● 実態把握をもとにした目標設定の妥当性を上げる必要がある。 ● 進路に関する研修を深める必要がある。	● 個々の生徒の障がい特性を理解するための検査やリストを各類型で使用している。 ● 客観的な根拠にもとづいた授業が実施されている。	● 各種チェックリストをつけ、わからないところは聞くことで、チェック項目の理解を図る。 ● 学習の中心課題を映像に残す。 ● 研究や分掌と連携し実態把握と目標設定、進路に関する研修を行う。	● チェックリストや中心課題の映像を撮ることで、焦点化された目標設定や学習内容の選定に繋がってきた。	B ● 実態把握のための客観的データの読みとる力を研修を行いながら高める。 ● 今後も個別の会を設定し、課題の把握や将来の生活について共通理解しながら、目標設定や学習活動に取り組む。

評価基準 A：十分達成【100%】 B：概ね達成【80%程度】 C：変化の兆し【60%程度】 D：まだ不十分【40%程度】 E：目標・方策の見直し【30%以下】